vinetur

イタリア、2027年の収穫期前にワイン向けの国主導の統一サステナビリティラベル導入を計画

政令により生産者のサステナビリティ表示が統一される可能性がある一方、基準や監督体制、実施方法は未公表

2026年11月18日（水）



イタリアでは、2027年の収穫期前にワイン向けの国主導の統一サステナビリティラベルが導入される可能性がある。イタリアワイン連合のランベルト・フレスコバルディ会長によると、農業省はロゴを創設する政令を2027年夏までに公布する計画だという。

フレスコバルディ氏は11月17日火曜日、Fiera Milano Rhoで開催されたSimei/Bevertechの開幕時にこの発表を行った。業界団体は以前からこの措置を求めてきたと述べ、イタリアワインのサステナビリティを示す国のマークとして、長く待ち望まれていたものだと語った。

同氏によると、農業省は同団体に対し、前進する条件は整っており、統一サステナビリティロゴを定める政令は2027年夏までに準備できると伝えた。この日程どおりに進めば、ラベルは次のブドウ収穫期を前に利用可能になる。

フレスコバルディ氏は、今回計画されている措置を、今年のSimei/Bevertechのテーマと結び付けた。同展示会では、特にエネルギーと水の使用量を削減し、サステナビリティの水準を高める技術や設備に焦点を当てていると述べた。

今回の発表は、イタリアワインが環境面での取り組みを示す方法に変化が生じる可能性を示している。全国共通のラベルが導入されれば、サステナブルワインの識別や販売促進の方法が統一され、生産者は輸出市場でより明確なメッセージを発信できるようになる可能性がある。また、買い手がワイン、ビール、蒸留酒を問わずサステナビリティに関する表示を重視する傾向が強まる飲料業界全体で、差別化につながることも考えられる。

ただし、こうした効果は政令の最終的な内容に左右される。フレスコバルディ氏は、認証基準やロゴの付与方法、生産者が現在利用している民間のサステナビリティ制度に取って代わるのか、あるいは併用されるのかについて、詳細を明らかにしなかった。

この計画は、依然として規制整備の段階にあるようだ。フレスコバルディ氏は、農業省が政令によって措置を正式化する意向だと述べたが、11月17日火曜日の時点で、実施方法や監督体制、ワイナリーがいつからマークを使用できるのかについて、これ以上の詳細は発表されなかった。

生産者にとって今回の提案は、サステナビリティとワイナリー設備や生産方法への投資との結び付きが強まるなかで浮上した。フレスコバルディ氏の発言からは、業界がこのラベルを単なる政策上の措置ではなく、エネルギーや水の管理における変化を、消費者や取引先に認識されやすいブランドイメージと結び付ける手段として捉えていることがうかがえる。

農業省はイベント中、この措置について公に説明せず、政令案も公表されなかった。現時点で最も具体的な情報は、政令が2027年夏までに策定される見込みであり、2027年の収穫期前にイタリアのサステナブルワイン向けの統一された国のロゴを導入することを目指すという、フレスコバルディ氏の発言だ。